糖尿病･内分泌内科

部長　浅羽　宏一

はじめに

長年、糖尿病･内分泌代謝内科/リウマチ･膠原病内科を牽引して来られた公文義雄先生が 2022 年 6 月に定年を迎えられ、これを機に糖尿病・内分泌代謝内科部門は糖尿病・内分泌代謝内科/リウマチ・膠原病内科から独立して、新たに糖尿病・内分泌内科として再スタートすることになりました。浅羽が担当部長として診療に当たることになりましたので、どうぞ宜しくお願い致します。診療にあたる医師は総合内科の中山修一医師と浅羽ですが、中山医師はリウマチ専門医ももっているので、リウマチ・膠原病内科でも診療を行います。水曜日には吉村江理医師がパートで糖尿病診療を手伝って下さっています。リウマチ・膠原病内科の公文先生と近澤宏明先生（水曜日、パート）も引き続き糖尿病診療をされます。

外来診療

①糖尿病内科：糖尿病療養指導士、糖尿病看護特定看護師、栄養士、薬剤師とチームを組んで診療に当たっています。当院は急性期病院として病棟診療が中心となっているため、内服薬のみの治療で血糖コントロールの良好な患者さんは、自宅近くのかかり付け医に紹介し、年に 1，2 回　検査や栄養指導、生活指導、服薬指導に来院して頂き病診連携をしています。外来でのインスリン療法の導入を積極的に行っています。ことしも開業医の先生方からインスリン療法導入の患者さんを 10 名程度ご紹介頂き、インスリン自己注射の指導、血糖自己測定の指導を行い、紹介元の医療機関へ御返ししています。今後も外来インスリン療法導入を積極的に行いたいと考えています。当院の糖尿病患者さんの延べ数は 5500 名前後で、国民病ですので多いですが、ほぼここ数年横ばいになっています（図 1）。近年、血糖自己測定に関しては鍼で血を出して測定する従来の方法から、センサーを皮下に取りつけ連続して体液中のブドウ糖濃度を測定する持続血糖モニタリングシステムが流行りになっています。痛みを伴わず 24 時間連続で測定可能であり、点で血糖を評価する方向から血糖変動を持続的に測定できるので、導入できる患者さんは積極的に導入したいと考えています。

②内分泌内科：圧倒的に甲状腺疾患が多いですが、二次性高血圧の精査加療で開業医の先生方からご紹介を頂いています。甲状腺疾患ではバセドウ病が最も多く、その他甲状腺腫瘍、亜急性甲状腺炎の患者さんが紹介されますので診療しております。バセドウ病の患者さんは、開業医の先生からの紹介又は救急外来から紹介で、毎年 50 名前後の新規のバセドウ病患者さんの診療を行っています（図 2）。メルカゾール 1 錠の維持療法のステージになれば、紹介先の医療機関へ紹介し、患者さんには年に 1，2 回血液検査やエコー検査に来院して頂き、病診連携を行っています。最近、原発性副甲状腺機能亢進症の患者さんが増えています。頸部エコーで腺腫が指摘出来れば手術していますが、腺腫の指摘出来ない場合が多く、薬物療法を行っています。

入院診療

①糖尿病内科：血糖コントロール目的の入院患者さんは年に数十名程度、糖尿病教育入院は新型コロナウイルス感染症の関係で 0 名でした。糖尿病急性合併症である糖尿病性ケトアシドーシスは 10 名程度、高血糖高浸透圧症候群は高齢者を中心に多く、数十名程度の入院があります。救命救急科と集中治療室で診療しています。病棟診療の中心は脳神経外科、整形外科、形成外科の周術期血糖コントロールの患者さんで 3 科合わせて常時 10 名程度います。糖尿病看護特定認

定看護師・岩井主任と週 1 回インスリン療法中の患者さんの回診をしています。血糖管理に困っている患者さんがいれば相談に乗っています。インスリン療法をされている患者さんは 1300 名前後で当院では糖尿病患者さんの約 4 分の 1 の方がインスリンを注射しています（図 3)。高齢でインスリン分泌が低下しているところへ、心不全や感染症などでインスリン抵抗性が高まり、インスリン注射が必要とされるのでしょう。

②内分泌内科：バセドウ病患者さんは循環器内科と併診することが多く、高齢者で心房細動＋心不全を呈している患者さんが殆どです。年に 2-3 名　心嚢液貯留を伴い重症甲状腺機能低下症の患者さんの診療に当たっています。電解質異常では低 Na 血症の患者さんが多く、SIADH の診断の元、治療しています。

今後の展望

当院は急性期病院という性格上、慢性疾患である糖尿病患者さんの外来患者数は減っていくと予想される。血糖コントロール不良の患者さんやインスリン療法導入の患者さん、糖尿病患者さんで上下部内視鏡検査、腹部エコー、糖尿病関連検査、栄養指導など年に 1 回集中的に検査をおこなう患者さんを開業医の先生方からご紹介頂き、検査や指導を行いお返ししたいです。また、糖尿病患者さんの膵癌などの悪性疾患の早期発見を行い、消化器内科へ紹介したいです。インターネットを用いて糖尿病非専門医のへき地の開業医の先生方と連携して、糖尿病診療オンラインコンサルテーションを行いたいです。同様の方法で、内科医のいない整形外科などの単科の病院とオンラインで連携して周術期血糖管理コンサルトテーションも行いたいです。当院や他院の看護師、栄養士などコメディカルの教育も積極的に行いたいです。

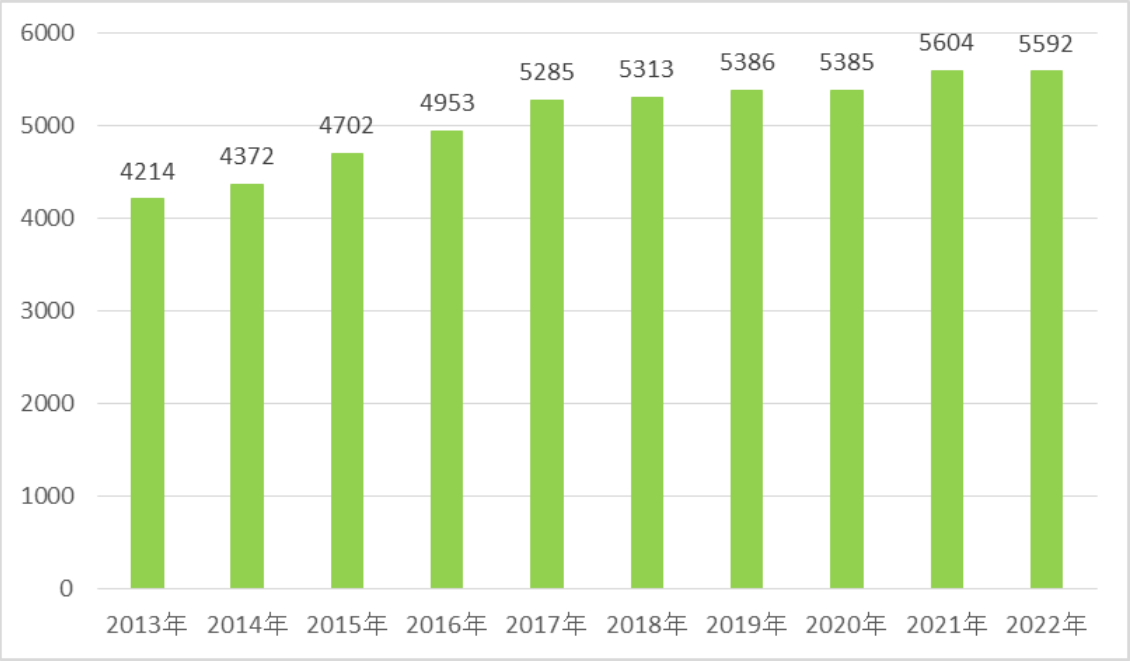

図 1　糖尿病実患者数

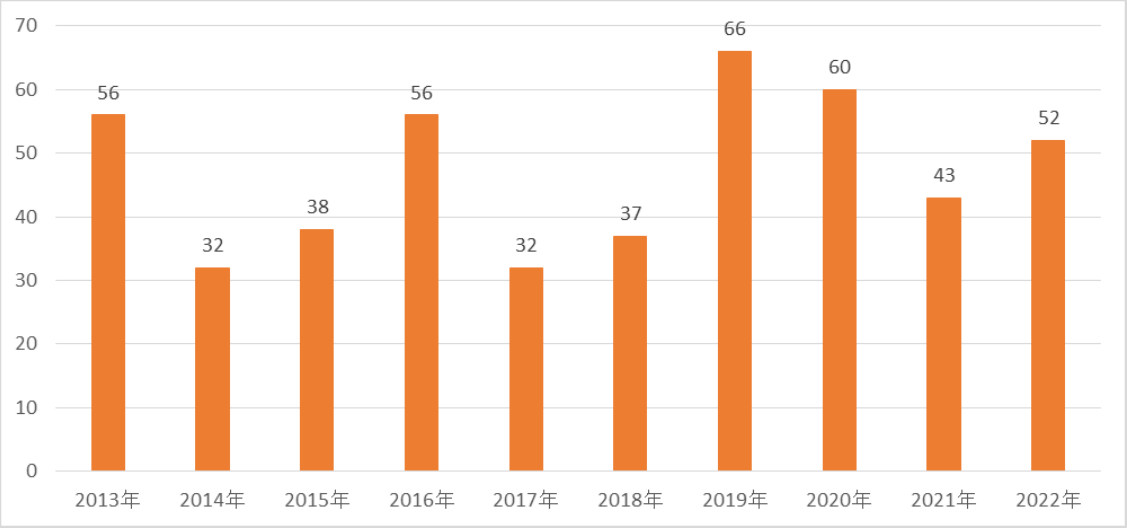

図 2　バセドウ病患者数

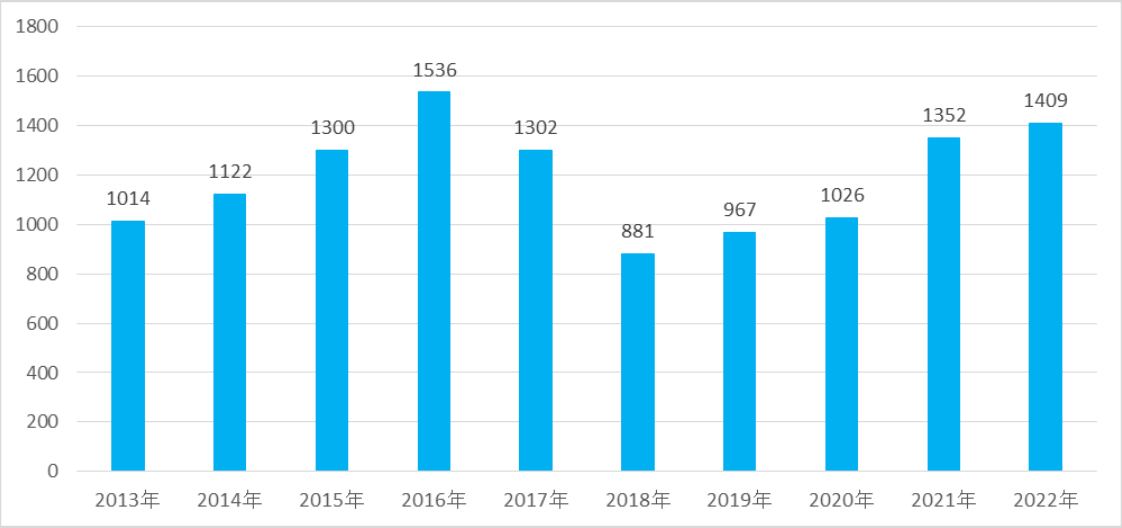

図 3　インシュリン使用数